

タイトル：地域をリードするさくらんぼ栽培

～ 自分も地域のみんなも儲かるさくらんぼ作りを目指して ～

氏名(法人名)：鈴木 威光 (すずき たけみつ)

1 組織の概要

鈴木氏は、昭和 62 年に経営を引き継いで以降、水稻主体の経営から、さくらんぼ、りんご、西洋なし等の果樹を主体とする経営に転換してきた。特に、さくらんぼの栽培では、ハウス栽培を導入、拡大して経営の柱に据え、高品質、高収益のさくらんぼ経営を確立して、地域を代表する生産者となっている。

現在、J A山形おきたまさくらんぼ振興部会の会長や J A山形おきたま南陽地区さくらんぼハウス栽培研究会の会長などを務め、会員の技術の向上と平準化のため様々な取り組みを企画、実施しており、地域全体の技術向上に大きく貢献している。また、自身の技術や経営内容をオープンにしながら、積極的に視察を受け入れるなど、地域の相談役ともなっている。

2 活動内容

(1) 品質重視のさくらんぼ栽培

さくらんぼの高品質生産に向けた先進的技術を、周囲に先駆けて積極的に導入しており、最近では、新しいせん定方法なども取り入れ、より高品質で収益性の高いさくらんぼ生産を実践している。また、受粉樹の積極的な導入やその他の様々な結実対策により、毎年安定した着果量を確保している。

(2) 後継者に魅力ある経営

就農 4 年目の長男には栽培技術のみならず、経営のノウハウについても教え、後継者の育成に力を入れている。また、作業も分担制とし、水稻部門やさくらんぼ加温ハウスの一部を長男に任せることで農業への意欲向上を図っている。

(3) 地域の栽培技術向上を目指して

新しい技術や品種、資材などを積極的に導入し、良いものについては周囲に勧めており、現在は見学に来る人が多く、地域の相談役となっている。また、栽培技術講習会や会議では、鈴木氏と J A職員、県の農業技術普及課職員で、事前に講習内容や問題点を検討しており、農家に現在の状況や対応技術を効果的に伝えることで、地域全体の技術向上に繋げている。

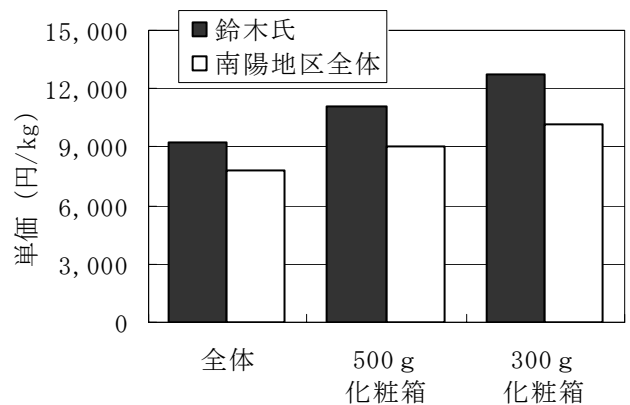
(4) さくらんぼハウス栽培研究会での提案と取り組み

正確な出荷時期と出荷量の把握のため、開花結実期と出荷直前の園地巡回を企画し、実施している。この 2 回の巡回により、以前より出荷体制が整えられ、安定した価格を確保できるようになった。また、ハウスさくらんぼ出荷時期での市場や果実専門店への視察も提案し、実施している。視察メンバーが出荷した翌日に実施し、自分たちが出荷した品物を実際に見ることで、確実に高品質のものを作ろうとする意識改革に繋がっている。

3 今後の発展方向

長男には、今後さくらんぼのハウス栽培部門と西洋なし部門を任せることにしており、経営についても新たな発想で新たな手法を取り入れてくれることを期待している。また、高品質なさくらんぼ生産を進める一方、高齢化に伴う労力不足を懸念し、省力化栽培も検討している。

置賜地域でのさくらんぼ栽培はまだ面積が少なく、これから増える要素はある。さくらんぼの栽培面積を増し、さくらんぼを中心とした農業経営ができれば、もっと収入が増え、そして後継者も育っていくと確信しており、村山地域のレベルに肩を並べるべく今後も地域のさくらんぼ栽培面積拡大と技術力アップに貢献していきたい考えだ。



H19 ハウスさくらんぼ 出荷形態別単価(佐藤錦)